

第 52 回 歴史&ハイキング愛好会例会 実施報告書

＝田端駅周辺を歩く＝

当番世話人 田代 周

春の彼岸を迎え、都内の桜開花宣言もすでに出された 3 月 22 日（日）暖かさを感じる中、参加者 7 名が JR 田端駅南口に集合、ここからスタートになります。山手線の秘境駅と言われた南口は駅員もいない無人駅で、ここを利用する人はまばらで閑散とした様子でした。



そこから不動坂を上り切ったところが第一のビューポイント。武蔵野台地の東の端に立って下界を眺めました。目の下には何本もの路線が並び、その先に新幹線のガードや町のビルなど家並みが続いています。残念ながらその昔は海であった縄文時代をしのぶことはできませんでした。

「幽霊坂」という名の坂道は都内にいくつか残っていますが、この幽霊坂はかつて「与楽寺」の敷地内にあったもので江戸時代にはと鬱蒼と木々に覆われていたところと創造されます。

この急坂を下って与楽寺境内に入りました。今回のメインテーマである「江戸六阿弥陀」第 4 番となる阿弥陀堂でお賽銭をチャリ〜ン。普段は障子が閉ざされて中を見ることができないのですが、彼岸の 7 日間のみ御開帳となっています。





第52回歴史&ハイキング愛好会例会

与楽寺境内で 令和8年3月22日（日）

称略：前列左から ・櫻井 實・六角 學・平木行雄
 後列左から ・住田勝治・山田昌之・湯浅尋夫・田代 周

この周辺は都内とはいえ道行く人も少なく、道幅も狭い静かな街並みを歩きました。
 次は赤札仁王の立つ「東覚寺」です。体全体が傷病平癒の祈りを込めて張られた赤札で幾重にも覆われていました。



続いて東覚寺のすぐ隣の長い参道の先、急な階段を上ったところにある「田端八幡神社」に参拝。

ここで平木さんが「大吉」のおみくじをゲット。きっと何か良いことが有るでしょう。

神社の裏に抜けて住宅街を進み、田端駅前通りの切通しの上を歩いて「東台橋」へ。

ここから見る田端駅北口周辺の賑わいは閑散とした南口とは対照的でした。

本日の最終訪問地「田端文士村記念館」で芥川龍之介をはじめとして、かつて田端に住んだ多くの文筆家、芸術家の活動の資料を眺めました。



時間も 12:30. 程よい運動でおなかもすいてのども乾き、田端駅北口の「目利きの銀次」で乾杯お疲れさまでした。



以上